

研究評価委員会におけるコメント

第33回研究評価委員会（平成24年11月13日開催）に諮り、以下のコメントを評価報告書へ附記することで確定した。

1. 低炭素社会を実現する超低電圧ナノエレクトロニクスプロジェクト／低炭素社会を実現する超低電圧デバイスプロジェクト（中間評価）

- ◆ NEDOは、参画している各企業の持つビジネスモデル及びその課題を把握した上で、将来のビジネス展開に繋がるようなマネジメントをしていただきたい。
- ◆ 本研究は、企業の研究部門が前面に出ているが、研究部門と事業化部門には大きなギャップがあるということを十分に認識した上で、NEDOがリーダーシップをとって、技術戦略の立案と研究開発マネジメントをして欲しい。

2. 次世代素材等レーザー加工技術開発プロジェクト（中間評価）

- ◆ プロジェクトの出口について、加工機であることを明確化すること。
- ◆ ファイバーレーザー全般に関して欧米に遅れをとっている中、どのように競合していくのかという戦略が重要であり、後半においてはその視点をさらに強化して、かつ底上げをねらっていくことが必要。
- ◆ 最終ユーザーを明確にし、巻き込んでいくことが必要である。

3. 太陽エネルギー技術開発／革新的太陽光発電技術研究開発（革新型太陽電池国際研究拠点整備事業）（中間評価）

- ◆ 2050年までに発電コスト7円/kWh未滿を達成するコスト目標はハードルが高いので、原理的な話とシステム化の話をうまく組み合わせるロードマップを引くことにより、どのように達成できるのかという見通しを明確にするべきである。

4. 太陽エネルギー技術開発／太陽光発電システム次世代高性能技術の開発 (中間評価)

- ◆ 全体コストを見るというのは、どうしてもマーケットで競争するとなれば避けられない話である。NEDOプロジェクトについても、NEDOは妥当なモデルを設定し、そういうモデルの中で少なくとも標準的な計算をすると資本コストはこうなる等のセンシティブティアナリシスぐらいのことをして、マネジメントに生かすべきである。